

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.74

詐欺メールも

「あなた」の検索履歴から届く



NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

子どもたちだけではなく、大人世代も分からない事があればスマホで調べるようになってきた。あなたも、つい気になる事をスマホで検索してはいないだろうか。

スマホが普及する前は、パソコンで検索していたが、その頃のパソコン検索はあまり個人情報と紐付いていなかった。しかし、スマホの普及により無料アプリをダウンロードするユーザー数も急激に増え、知らず知らずのうちに個人情報を提供してしまっている。

スマホの無料アプリの多くは、スマホ内にある情報を提供することで無料が成り立っているものが多く、スマホ利用者がどんな人なのかを紐付けている。利用者が誰なのかを紐付けているのではないので法的に問題は無いようだが、「誰が」ではなく「どんな人が」スマホユーザーなのかは分かっている。この点がパソコンを主流としていた頃との違いだ。仕事先のパソコンや家族みんなで使用する家庭用パソコンとは違い、スマホはおおよそ同じ人が使っている。Aというスマホを使用している人は40代女性で、食事

は何が好きでファッションはどの傾向か、仕事帰りに同じルートで同じ店に週三で通っているなど、ユーザーの好みや行動パターンもスマホは知っている。

最近のニュースでもchat GPTをはじめとするAIソフトウェアが話題になっているが、スマホのマイクから集められる音声検索データや無料通話アプリで話している会話からも考え方や今の流行りが分かり、そのデータはAIにも活用されている。世界中、どこからでも情報は集まってくるのだから当然AIは大量のデータを元に学習していく。肌身離さずスマホを持ち歩き、分からないことは何でも検索する人が増えたおかげでAIはどんどん成長し続けている。人口の多い英語圏のAIは完成しているが、日本語のAIはまだ完成とまではいかないそう。やはり人口の違いなのだろう。

AIが進化して、分からないことを手軽に教えてもらえることは大変便利で効率が良い事なのだが、果たして経験や体験の少ない子どもたちまでが、その恩恵を受け

ることが本当に良い事なのだろうか。動画サイトでも、スマホユーザーの趣味趣向によって表示される動画は人それぞれ違うのだから、闇バイトなどを検索していると、次々と怪しいサイトが表示されやすくなる。子どもが興味半分で検索していると、知らなくともいい情報にまで触れやすくなってしまう。薬物や自傷行為なども過去の検索履歴から表示されやすい人と表示されにくい人にわかれている。

例えば投資の方法などをネットで調べているという人を見てみると、専門書を購入して研究していた人たちと随分違いがあるように思える。専門書はそれなりに高価で、入手後も自ら試行錯誤して経験を積む必要があった。今やネットを使えば無料で手軽に専門情報を手に入れられるのだが、その情報が正しいかどうかを判断できない人ほど、詐欺の餌食となりやすい。悪意を持ってネットやスマホの利用状況を集めれば、詐欺のターゲットとなる人物も見つけられる。無料通話での会話や検索から「お金に興味がある」とは推測でき、「お金に困っている人」と「お金を増やしたい人」に分類できる。「儲かる話」はそうそうやってこないものだが、おいしい話が次々と届く人もいて効率よく詐欺メールは送られている。

スマホが普及して便利にはなってきたが、得た情報を自ら選別できるように意識していないとネット被害にも遭いやすくなっている。AIが進化し続けると、「自分で考えるなんて必要ない」という時代がくるのかも知れないが、AIに「ぼーっと生きてくんじゃねえよ」と怒られないようにしたいものだ。